

ヤングケアラー支援ケース一覧表

	年齢	学年	家族構成	現状	援助方法
1	男子：17歳	高校3年生	母48歳、 弟16歳、妹15歳、弟14歳	母は気分の波があり、就労も不安定である。4人の子どもは中学、高校と所属はあるが、不登校になっている。A市で行う居場所に妹（15歳）、弟（14歳）が利用する。母の体調が優れないことが多く、本児が家族の夕食を作っている。経済的に困窮しており、家の中は整理されていない。	週1回の弁当配食を行い、本家庭との関係性を作ることを目標にする。弁当を配ることから、日常の困りごとや生活の手伝いに対応できるようにしていきたい。
2	女子：11歳	小学校6年生	父44歳、母48歳、 弟7歳（小2）、弟5歳	家はゴミが散乱していて、ゴミ屋敷状態である。祖母が元気なうちは子どもを見ていたが、祖母が数年前になくなってから、本児と弟は不登校になる。父母は養育をせず仕事に行っている。下の弟たちの世話をするため、本児は学校に通えなくなっている。	週1回の弁当配食を行い、本家庭との関係性を作ることを目標にする。弁当を配ることから、日常の困りごとや生活の手伝いに対応できるようにしていきたい。
3	男子：14歳	中学3年生	母45歳、姉21歳、弟10歳 （小5）、弟4歳	三男は体調を崩しやすく低体重が続く。長男が母の代わりに三男と一緒に遊ぶ。母は三男と寝るが、服薬しているため起きることができない。夜間に三男が起きてきたとき、長男が三男が寝るまで世話をする。長男、二男は不登校。昼夜逆転。月2回のショートステイ時のみ登校できる。母の就寝後、夜間に三男の火傷が起こる。数日経って支援者の指摘により事故に気づく。母子は保護を望まない。支援者と本家庭の関係は良好。	センターは長男と二男、（必要に応じて三男）をショートステイとして月2泊3日×2回一時預かりをする。本ケースは児相、市こども担当課、市福祉事務所、アステラス、病院、保育園、小中学校、SSW、障害児者相談支援センター、放課後等デイサービス事業所、家事支援ヘルパー、民生児童委員と多くの機関が支援する。母の養育力不足、長男が弟の面倒を見ることが続くが、当センターでショートステイを利用中は、ケアする側から、ケアされる側になる。具体的には、食事をとり、洗濯がされ、好きな絵を描く時も褒められる。弟たちにも優しく気遣いができるお兄さんになる。
4	女子：15歳	高校1年生	父40歳、母42歳、妹13歳 （中2）、妹11歳（小6）、弟5歳	父は支配的で、母はテキパキと動けないことから両親の関係は悪い。家の中は物が片付かず、ゴミが散乱する。普段、父が帰宅する21時に家族で夕食をとる。本児（長女）が弟の入浴を介助する。2022年度、二女が不登校だったが、11月に弁当配食が始まり登校できるようになった。	月1～2回、町が家庭訪問する。2022年11月から弁当配食が始まった。配達するボランティアの一人が民生委員であり、子どもたちが通う小学校教員であったため、不登校だった二女が登校できるようになった。家のごみが無くなったわけではないが、玄関にあったゴミが片付き、衛生面で改善が図られている。
5	女子：15歳	高校1年生	母43歳	現住所地に引っ越す前はネグレクトで本児は児童養護施設入所になった。母は児相の指導を受け入れ、本児が中学入学とともに家庭復帰し、児家センの指導委託（1年間）を受けた。母子ともにこだわりが強く、市、児家センの関係は良好だが、学校への拒否感が強い。母は本児を話し相手としているが、本児は母に何でも話せるわけではない。家の中はきれいとは言えないが住むことはできる。コロナ給付金、学校提出の書類が滞る。苦手なことを避ける傾向があり、約束が反故になることも多い。2022年度は弁当配達を行った。	月1回センターが家庭訪問する。2022年度、本児が高校受験だったため、毎週、地域の居場所で学習支援をセンターが行った。弁当配達も継続し、困ったとき、気軽に電話相談できるようになった。苦手だった書類作成も放置せずに母がなんとか作成し、高校入学に間に合わせた。
6	女子：13歳	小学6年生	実父41歳、 妹小学2年生、弟4歳	父子世帯。父は身体障害者手帳2級所持、メンタルクリニックにも通院中。母は一昨年に自死。本児と妹が弟のケアを担っている。また、父の障害もあり、子どもたちは日常のことを自分たち自身で行わなければいけない現状にある。	要対協ケース。支援にあたっては、関係機関と連携を密に取り合いながら進める。児童家庭支援センターの特徴の一つである、子育て短期支援事業を活用し、個別にケアされる時間を確保している。また不定期で訪問面接を行っている。
7	女子：13歳	中学1年生	実母35歳 継父40歳 妹8歳 （小2） 弟1歳	実母、継父ともに精神科通院中。メンタル不調から実母継父共に就労しておらず、生活保護受給中。養育者の現状から、妹や弟の日常的なケアはBが担わなければ生活が成り立たない状態にある。	要対協ケース。昨年度のヤングケアラー支援事業における食支援をきっかけとし家庭訪問を実施。それを契機として当センターに繋がっている。今後は、訪問面接を定期的に行うことに加えて、心理支援の導入も検討している。

8	女子：12歳	中学1年生	実母41歳、妹2歳	母子世帯で、母はメンタルクリニック通院中。気分の波があり、寝込むことも多い。母が妹のケアを行うことが難しいときに、Cが担わざるを得ない状況にある。	要対協ケース。支援にあたっては、関係機関と連携を密に取り合いながら進める。児童家庭支援センターの特徴の一つである、子育て短期支援事業を活用し個別にケアされる時間を確保している。LINEを活用し、様々な悩み事など対応している。
9	男子：11歳	小学6年生	実母37歳、弟5ヶ月	母子世帯で、母はメンタルクリニック通院中。母は弟を妊娠中から気分の不安定な様子があり、出産後も続いている。母がEの寝かしつけ等を行うことが難しいときに、Dが担っている。	要対協ケース。現在、産後ヘルパーや育児支援ヘルパーの活用を図っている。児童家庭支援センターの特徴の一つである、子育て短期支援事業を活用し個別にケアされる時間を確保している。LINEを活用し、様々な悩み事など対応している。
10	男子：16歳	高校1年	実母46歳 継父41歳 異父弟11歳	4人世帯ではあるが、日常的に父が不在の家庭。母は精神障害者手帳3級所持。メンタルクリニック通院中。Eが家庭内で夫かつ父親的役割を担っている現状があり、本音を吐露しにくい状況にある。ストレスが身体症状（発熱や嘔吐等）に現れる傾向にある。異父弟も母に対して様々な思いを抱えていると推察される。	要対協ケース。支援にあたっては、関係機関と連携を密に取り合いながら進める。関係機関カンファレンス、Eや弟との面接を定期的に行い、家庭状況や子どもたちそれぞれの状態をアセスメントしている。
11	女子：16歳	高校1年生	実父42歳、実母40歳、弟5歳	両親、弟とSさんの4人家族。父は会社員、母は無職、弟は保育園児。母は精神疾患があり、家事全般が苦手。父は仕事が多忙なため、家事や育児にあまり協力しないが、母が支援を受けることにも消極的。母は父に困難さを訴えるが、なかなか理解してもらえない。Sさんは弟を非常に可愛がり、弟が乳児の頃から母に代わって授乳やオムツ交換を担ってきた。不登校気味で高校卒業が危ぶまれているが、自分から困りごとを話すことはしない。	①心理士が病院と連携を取りながら母と定期的に面談をする ②週1回家庭訪問をし、母やSさんと一緒に食品や日用品などの買い物をしながら話を聞く ③父と電話で連絡を取り、思いを聞くとともに、必要な情報を伝える ④市役所と連携を取り、必要な支援につないでいく ⑤学校と連携し、Sさんの学習や外出の支援をしながら進路についての話をしていく
12	女子：17歳	高校2年生	実父59歳、実母46歳	両親とKさんの3人家族。父の仕事は自営で、収入が安定しない。母は東南アジア出身で、日常会話はできるが複雑な内容の理解には時間がかかる。パートで働いていた母が体調を崩し、退職して自宅で療養することになった。世帯の収入が低くなる月は、Kさんのアルバイト代の一部を生活費に充てなければならない。また、Kさんは幼い頃から母の通訳のような役割を担ってきた。	①週1回家庭訪問をし、Kさんや母と一緒に食品や日用品、衣類などの買い物をする ②学校と連携しながらKさんの話を聞き、進路のことなどを話していく ③自転車・食品などニーズに合った物を届ける ④市役所と連携を取り、必要な支援につないでいく ⑤ご家族の通院や市役所・ハローワークなどでの手続きに同行する

13	女子：13歳	中学2年生	実母40歳、 長女18歳（アルバイト）、 次女15歳（通信高校）	ひとり親家庭で、母・長女・次女・三女の4人暮らし。長女は通信制高校を無事卒業し就職を果たし、自分の将来のための貯金をしたり、家計を少し助けている。不登校傾向の次女はこの春、中学を卒業し通信制高校に通いながら初めてアルバイト（週5日）を始めた。母親はこの春、夜勤の仕事から日勤の仕事に変わり、平日夜は家庭にいれるようになったが、週末の夜勤の仕事とのWワークでいつも睡眠不足で疲れている様子が見られた。子ども達が母に代わり、お米を炊くことはたまにあった。2年前は1日1食の日も多く、食べずに寝てごまかしたり、冷蔵庫が空っぽと表現するなど家庭での食事環境の懸念があった。母親は不登校傾向の三女の週1回の朝の登校や適応指導教室への通室の送迎、次女の高校（週1回）やアルバイト先への送迎、買い物や洗濯は行えている。しかし、食事を作り用意するだけの気力や活力はなく、食事の支度がほぼ毎日できていない状態である。	児童家庭支援センターの不登校やひきこもりの児童を対象にしたグループ活動にて、クッキング活動や外出行事を行い、料理の機会や社会的経験、楽しい体験の機会を作る。ヤングケアラー支援活動として家庭訪問による食材配布の継続。こども食堂への声掛け。子育て支援課や適応指導教室、学校と連携した家庭のサポート。家庭訪問で玄関で応対してくれた児童や母親と会話を通した情緒的交流と家庭の状態把握。活動では、同世代の子どもやスタッフ（大人）との対人関係の機会を作り、対人交流を通して他人への安心感や信頼感、社会への欲求や社会への開かれた態度（社会性）、対人スキルを育む。クッキング活動では食への興味や児童がきちんと食事をしたいという健全な欲求や意欲を育み、家庭でも料理をする力を身に付け、生きる力を育む。外出行事では様々な体験の機会を作り、楽しい体験を通して心や情緒を豊かにし、児童の豊かな人格を育む。
14	女子：17歳	高校2年	実父40歳、実母38歳、妹10歳、弟8歳	日系ブラジル人の家庭で、父母ともに派遣社員として大きな工場で働いている。夜勤業務のある仕事であるため、夜間に長女である本児が妹と弟の面倒を見ることが多々あり。休日は妹たちを連れて公園へ行き面倒をみている。また両親の日本語が不十分なために、本児を通訳で同行させることも度々ある。本児地元の進学校で勉強に励んでいる。母は6月には第4子出産予定。本児からは自分に使うお金はないと進学に対してあきらめの言葉が出ている。	地元で子ども食堂や学習支援等、集いの場を主催し、日系ブラジル人の子どもやその家族を支援している団体と協力して支援を実施する。学習支援会場では、妹や弟への食支援を行い、本児の困りごと等を話す場としている。児家センとして、食支援や日本語検定試験受験を援助する。
15	女子：16歳	無所属	実父40歳、実母40歳（別居中）、兄18歳（自立）、姉17歳	日系ブラジル人の家庭で、父母は離婚。母と一緒に住んでいるが、生活は困窮している。小学校の頃より、母が家事をせず姉妹で生活しているような家庭。母は自分の生活しか考えていない。母との生活状態が厳しくなり、昨年より父と姉と一緒に住み始める。2月には通っていた高校を退学しアルバイトを始める。	地元で子ども食堂や学習支援等、集いの場を主催し、日系ブラジル人の子どもやその家族を支援している団体と協力して支援を実施する。水道が止まったり等の困りごとがあると、連絡が入り助言を求めている。こども食堂にも参加し、居場所となっている。児家センとして食支援を行う。
16	女子：13歳	中学2年生	祖父、祖母、姉18歳、弟8歳、弟6歳	母が一昨年に家を出てから、祖父母と姉弟の暮らし。祖父が車の運転をして送迎等を担っているが、体調を崩し入院する。祖母も養育力が弱く、生活困窮している。学校での成績は下降気味。	地元での学習支援に弟が祖父の送迎で参加しており、指導者と良好な関係にある。また、指導者が食品を自宅まで持参している。児家センは、学習支援場所での見守りや、食料、生理用品、靴等を訪問し届けている。
17	男子：16歳	高校1年生	祖母（70代）	ヤングケアラー相談窓口到学校より相談が入る。母子家庭。母の両親（祖父母）が近くに暮らしていたが、数年の間にあいついで祖父と祖母倒れ、他界。また、今年、母が病気で倒れ、1か月入院した。母の病院からの説明等も全て児が対応した。現在母は退院し、自宅で安静にして過ごすことができている。児に不眠、脅迫症状、確認行為（寝る前の儀式、夜中に母の呼吸を確認する、学校の昼休みに母に電話し生存確認する）が見られている。母のことや自立への不安を感じている。	確認行為が見られることから、初回面談はセンターの心理士とヤングケアラー相談窓口スタッフ、計2名で学校へ訪問し、面談を行った。2回目は母はヤングケアラー相談窓口スタッフが面談、児はセンターの心理士が面談を行った。その後、児はセンターに通所してカウンセリングを継続している。児よりグリーフケアに参加してみたいという要望があった為、ヤングケアラー相談窓口にて市内の参加できるところを案内し、児が行ってみたいと希望したグリーフケアに同行した。

18	女子：17歳	高校3年生	父（50代）、母(50代)、 兄（20代）	<p>高校2年生。兄は不眠により、学校に登校できていない状況。</p> <p>父：飲食店経営。仕事で夜遅くに帰ることが多い。コロナの影響を受けており、兄には、経済面での不安や愚痴を語ることが多い。</p> <p>母：窃盗により逮捕され、現在は収監されている。</p> <p>兄：引きこもり状態を経て、大学に進学することとなった。</p>	<p>当初、高校のスクールカウンセラー、担任と一緒に面談をしていた。2回目の面談以降、本児は高校を退学し、通信制高校で残りの単位を取得したいとの申し出があった。本児が通うこととなった通信制高校は通うことも出来るため、兄は自分に合うと考えている。以前通っていた高校に比べると難易度も低く、個別に塾などに通い大学進学を目指している。アルバイト代で父に学費を支払う予定である。高卒認定試験を受けて大学受験する方法を選択することも考えている。転学後は、兄と面談をしながら、近況報告を聞いている。兄は父親には頼らないという強い意思があるため、ヤングケアラー相談窓口から父親へのアプローチは出来ない状況。</p>
19	女子：19歳	専門学校1年	父、母、弟（小学生）、妹 （新生児）	<p>基幹相談支援センターからの相談。精神疾患の母が1か月後に出産する。母は感情に波があり、子どもの前でリストカットをしたこともある。一番上の子（兄）が常に母に寄り添っている状況。学校を欠席したり、学校に遅刻して登校、昼食前に母が心配だと早退したりする。家事は母が担っており、兄もそれを手伝っている。兄は自分の為に時間を使えないが、そのことについては諦めている様子がある（相談当初）。母が出産を控えており、兄への負担がさらに増えるのではないかと危惧している。</p>	<p>まずは、兄が相談していることを母に知られたくないという本人の意向を尊重している。基幹相談支援センター、学校（SSW）、子育て支援課と一緒にケース会議を行い、各自の支援の役割を確認した。家庭の状況は相談当初より改善しているが、母に「ヤングケアラー」というワードをまだ伝える時期ではないということで、基幹相談支援センター担当者やSSWが母に連絡を取り、様子を伺ったり、家庭訪問を行っている。兄が高校から専門学校に進学する際の引継ぎ役として窓口スタッフが月に1回のペースで学校で兄と面談を行い、状況や困っていることを傾聴してきた。兄へも「ヤングケアラー」というワードを伝えることに関しては特に慎重に対応を行い、兄との信頼関係をしっかりと築いてから説明を行った。</p>
20	女子：15歳	中学3年	父、母	<p>父は精神疾患で休職、入院、復職を繰り返し、母もうつ病の既往がある。父の精神疾患の進行に伴う人格変容もあり、家庭内での夫婦喧嘩が絶えず、母の精神的な支えとなる時もある。母子ともに父の行動に振り回され疲弊した状態が数年間年間続いている。</p> <p>子どもの抑うつ感は悪化し続け、不眠、食欲低下、無気力などがみられ、希死念慮が強まることもしばしばあり、外出が困難な時もある。母の精神科医療への抵抗感が強く、子どもの精神科受診にも中々つながらない状況。</p>	<p>児童家庭支援センターで母子通所され、親子双方のカウンセリングを継続している。行政サービスや医療につなぐことを目指すが、現在のところ両親はサービス利用に消極的であり、子どもが不調で外出が難しい場合には、子ども担当者が、時々家庭訪問をし子どものカウンセリングを継続するとともに、家庭内に第3者が入ることのハードルを下げていきたいと考えている。</p>
21	女子：18歳	高校3年生	母（40代）、父（40代）、 妹（小2）	<p>両親とも仕事をしており、妹は軽度知的障害あり。両親に代わって、妹の登校前の着替え、食事、登校付添い、学校との連絡などを本児が行っていた。登校しぶりもあったため、本児の高校の遅刻、欠席などが増えていった時期もあった。土日も仕事の両親に代わって妹の世話をしており、夕食などの準備を本児が行うことも多い。進路選択の時期にあったが、卒業そのものが危ぶまれる状況となった。父から母子への暴力も時々みられる状況。</p>	<p>母親、本児、妹にそれぞれ担当者をつけ継続的なカウンセリングを行い、両親間の関係調整、親子関係の調整を行う。また、妹への支援として、学校と連携し、放課後等デイサービスの利用や手帳取得などに向けて障害福祉のサービスとのコンタクトを図る。本児の進路決定については、学校の進路指導担当教諭とも連携し、伴走支援を行った。</p>

22	13歳	中学2年	実母、異父弟（小3）、異父弟（小1）、異父弟（5歳）	<p>・小1の弟がADHD傾向があり、家の中で暴れたりする状況。・母は、家庭の事と仕事の事で疲弊しており、うつ症状がある。・母の仕事が継続できない状況もあり、経済的に行き詰まっている状況もある。・本児は、不登校傾向にあり、学校や学習に気持ちが向いていない面もある。・弟たちは、母に甘えられない所を本児に向けているところもあり、本児が弟たちのケアをしている。・小1の弟が暴れた際は、本児が止めに入り、攻撃される。・高校進学は、本児の希望するところがあるが、経済状況などもあり、母からは、違う所を勧められている。</p>	<p>・定期的なショートステイ利用により、母が休める状況を作り、家庭環境の安定を図る。・進学に向けて学習が出来るように、学習道具・教材の提供や学習支援を行う。・外出などを通して、本児と1対1で過ごせる時間を作り、本児が弟たちから少し離れて、中学生らしい時間を提供出来るようにする。</p>
23	14歳	中学3年生	実母40歳	<p>外国籍の母を持ち、経済的にも困窮している世帯。 本児は7歳の頃にほとんど日本語も話せず入国し、小学校の多国籍クラスに所属。その頃に要対協に受理されたが、生活が安定したため、終結。本児が思春期になり、母親との衝突が増え、最後受理される。母親は外国文化での子育て（いう事を聞かないと叩く、大声で怒るなど）をし、本児はそれに違和感を感じるとともに、日本語がうまく話せない母親の通訳になり、本児への負担も増加している。</p>	<p>中学校と連携しながら、本児の状況を確認してショートステイを利用してもらおう。そこで本児と関係を築き、本児の希望を聞く。「受験生になるので勉強に頑張りたい」「母親がお金に困っている事を家で話されても困る」という事で、本児への学習支援と母親の社会資源への繋ぎを並行しながら行う。</p>
24	13歳	中学2年生	実母35歳・養父27歳・弟11歳・異父弟7歳・異父妹4歳 ・異父弟2歳・異父弟0歳	<p>小さい頃より本児、弟は保育園からアザがあると通告があり、要対協で受理されていた。母親が再婚して、異父兄弟が生まれてからは不登校が目立つようになった。本児が下の子どもの保育園送迎で目撃されたり、家庭訪問すると本児が乳幼児を見ていることも多かった。また登校してきても、授業中眠っていることが多く、話を聞くと夜中に乳幼児の世話をしているとのこと。母親自身も20代の頃より、うつ病を患っていたり、経済的に困窮（給与は安定して入っているが、出費が多くてすぐなくなる）しており、ショートステイの利用も利用料が負担となり、利用に至っていない。</p>	<p>利用料の心配をしなくてもいいような形でショートステイの利用を勧めていく。本児らが少しでも自分の時間を持てたり、自分の希望を通せるように、家庭訪問などを通して関係を築き、話を聞いていく。</p>
25	女子：15歳	中学1年	実父44歳 実母41歳 実妹12歳	<p>・ 両親、妹と本児以外の家族全員療育手帳B2所持。・ 両親はB型就労、妹は支援学級、放デイ利用。その他、ヘルパーや行動援護など障がいサービスはフルに導入している。・ すでに本児が両親の能力を上回っており、本児の求めるケアは行うことが難しい。加えて、家族の調整やサービス提供者との関わりなど、本児を中心に置いた生活状況ではないため、頼れる身近な大人が不在。・ ヘルパーが毎日入り、家事負担はないものの、年齢に応じたケアや社会活動の実施が難しく、ひきこもり状態。・ 長期的な課題として、両親の障がいの告知、今後の見通しなど本児自身が家族の現状と直面し、対応しなければならず、家族の問題を一手に引き受けなければならないことが懸念される。</p>	<p>・ 定期的な面談により、心理的ケアを行う。 ・ 年齢に応じた社会体験活動の機会を提供し、体験不足を補う。 ・ 進学やバイト、趣味の活動など、必要に応じて社会スキルを教え、一緒に取り組む。</p>

26	女子：14歳	中学2年	実母35歳 姉19歳 妹5歳 2歳	<p>・ 本児と姉が妹2人の日常の世話、保育園の送迎、土日含む実母不在時の世話、その他の家事をになっている。・ 実母は無職。手当のみで生活しているため、困窮している。・ 妹の特性あるが継続的な受診はなく、虫歯などネグレクト傾向も伺える。・ 現在の環境について、本児はケアを担いたくないと何度も実母と衝突。最近、喧嘩して家を飛び出すこともある。本児のみならず、実母も疲弊している状態。・ 本児の登校状況は時期によってまちまち。欠席理由も時によって異なる。ケアのため登校できないことも稀にある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本児との定期的な面談を実施し、状況の把握。実母と調整ができる事柄については調整を行う。</li> <li>・ 修学旅行の学年のため、本児が参加できるよう実母と経済的な状況について整理し必要な手立てを行う。</li> <li>・ 社会体験活動により、年齢に応じた社会スキルの獲得を行う。</li> </ul>
----	--------	------	-------------------	---	--